

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	編輯後記
Author(s)	松本; 梅崎
Citation	龍南, 228: 101-102
Issue date	1934-06-28
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7213
Right	

編輯後記

「龍南」は同人雜誌であつてはならない。あくまでも龍南人すべてのものであらねばならない。この私の念願がなつてか或ひは所謂五高ルネッサンスの叫びが具現の途上についたのか、兎も角も多くの新人達の作品が集つたことを、満腔の喜びを以て報告する。そして賢に於ても、その各々に過去の龍南普通號に比して、より多くの野心的なものの萌芽を感じるこれに明確性を與へることは決して若さを失ふことではなく大いなる發展であるだらう。この意味で私は秘かに龍南の將來を期待する所がある。

投稿作品の一々についての批評めいたことは差控へたい。唯掲載の論文、創作を一瞥すれば、「耽美主義文學」はいささか纏りを缺いだ點がないでもないが文字通り努力の結晶である。「黨の中で」は把握の不足を感じさせるが、何れにせよこの作者を見出し得たのは嬉しい。「萌芽」は前に「若い人々」を發表した人にとつて、當然ともいふべき一つの進展であらう「春雷」は試作でしかあり得ない。紙数の都合上割愛したものの中にも、可成り高く評價し得るものがあつたことを附言する。そしてこれらの人々の御了承を願ふと共に今後の努力を願つて止まないものだ。

五高ルネッサンスは文藝にのみ限られるべきであらう筈が

ない。この意味で、科學論文等の投稿も豫期されていいだらう。今こそ、全龍南人が高踏と逃避から脱する時と信ずる。

「龍南」はそこに重大なる存在意義を見出すだらう。

掲載順序はすべてアルファベット順にした。

エッセイ並にカットを頂いたグライル先生に甚深なる感謝の意を表する。

表紙は洋畫研究會の川北君に、「歐人と日本人」の翻譯は文三乙の山本君にお願いした。

(松本)

○創作の方は豫想以上に澤山集まりましたが、詩、歌、句は割に淋しく、特に短歌に於てその感を深くします。そうして期待して居た一年生の人達のが少なかつたのは一寸物足りなく思はれます。

○詩は五篇。皆とりどりの味を見せて、割合に自由な感情を表現して居るやうに思へます。清永、江藤兩君の詩は、素直な感情を美しい言葉で表現してあつて、その點敬服に價するやうに感じられます。頁数の都合上割愛した二篇もそれぞれ捨て難い味を見せて居ました。無題と題する詩篇は着想は良いのですが、もつと感情を整理したらどうかと思はれます。午前七時と題する詩篇は、何かしら清新なもの

が欠けて居て、もつと感情を飛躍させやうと勉めるべきだと言ふやうな感じを抱かせます。

○短歌一篇、此の一年生の歌人は、割合に良い味を持つて居るのですが、まだ物足りぬ何物かがあるやうです。おそろくは短歌に於いての経歴がまだ短い爲でせう。それ故次の作品が期待されます。

○俳句。三人の投稿者があつたのですが、何れも去年の龍南に比べるとずつとレベルが低いやうです。日方君のだけを拾ふ事が出来ました。上田先生は、良い所はあるが惜しい事には少し型が古いと批評して下さいました。

○かう雑誌をこしらへて終ひますと、何より痛切に感じられるのは、龍南に批評家の出現です。新しい詩人、歌人、俳人と共に、新しい批評家もその出現を待望されるべきでせう。亦その時は、その爲に龍南は頁を割く事を惜まないでせうから。

(梅 崎)

昭和九年六月二十五日印刷

昭和九年六月二十八日發行

龍南第二二八號

編輯兼發行者

北野裕一郎

印刷者

松本 猪熊 熊本市知足寺町九

印刷所

松本印刷所 熊本市知足寺町九

發行所

第五高等學校雜誌部